



弘前城植物園・藤田記念庭園



管理ボランティア「みどりフレンズ」大募集♪



一般財団法人 弘前市みどりの協会では、ボランティアスタッフ「みどりフレンズ」を募集しています。

私たちが管理運営している弘前公園内の弘前城植物園や、弘前公園に隣接する藤田記念庭園で一緒に植物に触れ合いながらボランティアをしてみませんか？

みどりフレンズとは、自然に触れ合いながら作業するボランティアスタッフさんのことで、例えば自分たちでデザインを決めて花壇に花を植栽したり、アジサイやバラの剪定、ハナショウブの株分けをしたりなど園内を綺麗にする活動を中心に作業を行っており、実際に体験を通じて楽しみながら学べるきっかけとなればと思い、皆さんと共に活動を始めました。



弘前は世界的にも有名な桜の名所です。そんな弘前を訪れる観光客の皆さまを迎えるために園内をキレイに整備し、弘前はこんなに素敵なおとこだったよ!とってもらえるような施設を目指して活動しております!

みどりフレンズは個人でのご参加はもちろん、お友達、お知り合い同士でのご参加も大歓迎ですのでお気軽にお問い合わせください。また、サークルやクラブ、学校や企業等による大人数での参加も募集しております。活動日や内容については藤田記念庭園管理事務所(0172-37-5525)へお問い合わせください。



「みどりフレンズ」に参加しました!



一昨年、昨年と弘前城植物園のボランティア活動に参加したのですが、アジサイの花ガラとりやプランターへの花苗植栽など、植物園作業員の方からやり方や注意点などを教えてもらい、楽しみながら学ぶ事ができました。普段あまり接することがない作業員の方や、ボランティア仲間と話をしながら楽しく活動することができました。人とのつながりが良い刺激になるので今年も参加したいと思います。

みどりフレンズ参加 中畑様



市民ボランティア交流まつりを開催しました

令和3年2月23日、ボランティア団体や市民参画センターに登録している団体が、展示・体験・発表・販売のコーナーを設け、活動の成果をご紹介する「第10回市民ボランティア交流まつり」を開催しました。

このまつりは、参加団体の代表で組織される実施委員会により開催されるもので、今回は、新型コロナウイルス感染症の対応のため、展示・体験・販売のコーナーはヒロロ3階のヒロロスクエアで実施し、発表は4階の市民文化交流館ホールで行いました。

展示コーナーでは、子どもたちの自然観察の結果をまとめ、賞を受賞した壁新聞の展示や日頃の活動の成果である絵手紙や写真を見ることができました。今回は会場レイアウトも大きく変わり、展示がぐるりと見渡せるようになり、より多くの団体の展示を見るきっかけにもなったようです。

体験コーナーではインスタントカメラでの撮影体験やバルーンアートなどを楽しむことができました。販売コーナーでは団体の制作したこぎんや裂織りの手芸品、お菓子やパンなどが販売されました。発表コーナーではフラダンスやコーラス、読み聞かせなどが発表されました。例年と会場が変わり、舞台上でスポットライトを浴びて発表した団体は、いつもと違う雰囲気を楽しんでいたようです。



市民協働課の「協働♪まちづくり講演会」も併催されました。弘前大学人文学部：大倉邦夫先生の市民活動についてのお話だったので、知識も得ながら様々な団体の活動も見ることができ、またとない機会になったと思います。

参加団体は例年より少なめでしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、発表会などが中止になった団体も多く、参加団体の方は「久しぶりに発表できて良かった」等の声があり、ご来場の皆様からは「様々な団体の活動を知るきっかけになって良かった」などの感想をいただきました。子どもから高齢者のかたまで幅広い世代の市民にお越しいただきました。ご参加ありがとうございました。

~~~~~「協働も 川柳になる おもしろい!」~~~~~

市民ボランティア交流まつりの会場の外側では、市が市民のみなさんと一緒になって取り組んでいる、協働によるまちづくりの更なる推進のために募集した「協働によるまちづくり川柳」作品展が行われていました。北は北海道、南は宮崎県まで日本全国から100点以上もの作品が寄せられたとのこと。県外からの応募には、担当者もびっくりしていました。金賞は「出来ること 出来る時間に 出来るだけ」でした。応募作品は、市のホームページでご覧いただけます。また、どの作品が入賞したかもわかります。ぜひこちらをご覧ください。



[http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/kihonjourei/R2kyudousenryuu\\_kekka.html](http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/kihonjourei/R2kyudousenryuu_kekka.html)



# 令和2年度 ほっと・ぼらんていあ が開催されました

ボランティア活動をするために必要な知識などをお伝えするために、令和3年2月28日午後2時～午後3時30分、弘前市民文化交流館ホールで『令和2年度第2回ほっと・ぼらんていあ ～今知りたい♪活動するのに必要なお金と力を集める話～』を開催しました。

今回は2人の講師から、「クラウドファンディング」「プロボノ」という、ボランティアにも活用できるテーマについてお話ししていただきました。

## ◎第1部

### クラウドファンディング利用イベント「冬に咲くさくらライトアップ」

講師：冬に咲くさくらライトアップ実行委員会代表 米山竜一氏

2017年の冬から弘前公園外濠で行われている「冬に咲くさくらライトアップ」は、夜の真っ暗な外濠の一角に、ピンク色の街灯がうっすら照らす場所を見て、さくらの枝に雪が乗った様子を写真に撮ったところ、冬に咲くさくらのように撮影できたことがきっかけで始められたそうです。

インターネットを活用して活動資金を集める「クラウドファンディング」は、支援者と達成感を共有できるメリットがあり、「気持ちを集めるシステム」と米山さんは説明されました。目標額の50万円を大きく上回り、約107万円が集まった時は「これだけ多くの気持ちをいただいたのなら、必ずやり遂げないと！」と気が引き締まったそうです。

米山氏の経験談を交えながら、クラウドファンディングの仕組みやポイントを詳しくご説明いただきました。



## ◎第2部

### 新しいボランティア「プロボノ」について～青森プロボノプロジェクト～

講師：青森県環境生活部県民生活文化課職員

「プロボノ」とは、仕事で培った知識、経験等をボランティアとして提供し、社会課題の解決に成果をあげる新しいボランティアです。2018年度から実施している「青森プロボノプロジェクト」では、外部の力を借りて活動を発展させたいNPO・地域団体を支援される側とし、経験や知識を生かして社会と関わりたいプロボノワーカーを支援する側として、双方が最も効果的に連携できるよう、目標を明確に設定し、具体的かつ実用性の高い成果物を提供する「プロジェクト型支援」を行っています。これまでの事例として、パンフレット・ホームページ・インスタグラムの作成、業務改善や事業戦略の提案等を県内の団体が受けて活動を活性化させた様子をご紹介します。



出席した参加者は

- ◎「クラウドファンディング」や「プロボノ」で自分は何ができるかなと考えました。
  - ◎社会貢献するにはある程度の活動資金が必要であることを再認識しました。
  - ◎これからボランティア活動に積極的に参加しようと思っています。
- と、参加して新しい取り組みを知り、ボランティアについて考える場になったようです。



# 「協働によるまちづくり 学生ジャーナリスト No.1 決定戦」開催!

市では、学生のまちづくりへの参加促進と、市内のまちづくり活動を幅広くPRすることを目的として、まちづくり活動の紹介記事コンテストを開催します!奮ってご参加ください☆

▽募集期間 令和3年10月29日まで(参加無料)

▽賞 1位(協働大賞):賞金5万円 2位:賞金3万円 3位:賞金1万円  
※その他、佳作として10作に図書券2,000円分

▽応募資格 (1)市内の高校、大学などに通っている人  
(2)弘前市民で、市内外の高校、大学などに通っている人

▽作品の規格 市内で行われるボランティア、町会活動などを取材し、A4サイズ1面(カラー可)に紹介記事をまとめ、応募してください。

▽応募の流れ ①エントリーシートに必要事項を記入し、事務局へ提出。

②取材、記事作成後、事務局へ作品を提出。

▽問い合わせ先 市民協働課(コンテスト事務局) ☎ 40-7108

✉ shiminkyoudou@city.hirosaki.lg.jp

☆コンテストの詳細は市HPをご覧ください。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/keikaku/kihonjourei/gakuseicontest2021.html>



## 弘前市ボランティア支援センターの新メンバー(担当職員)を紹介します



♪はじめまして♪

4月から市民参画センターに来ました中村です。

3月までは「市民参加型まちづくり1%システム」や「協働のまちづくり」の担当をしていました。

そのため、参画センターを利用される方には顔馴染みも多く、みなさんと引き続きお会いできるのをうれしく思います♪

休日は数年前から始めた登山やスキーを楽しんでいます。疲れたな~と思っても、きれいな花や四季折々の景色に癒されます。パワー溢れる先輩方ともたくさん出会え、いつもいっぱい元気をもらっています。

そして、運動の後の温泉も楽しみの一つです。青森には個性あふれる温泉がたくさんあって、毎回、新しい温泉を探すのもワクワクします♪

まだまだ登山もスキーも初心者ですが、何歳からでも何か始めることができる!と思いますので、みなさんもぜひ新しいことにチャレンジしてみてください。

これから、たくさんの方々と知り合えていけたらと思いますので、よろしくお祈りします。

中村ゆかり



## 編集後記

### 「コロナ禍のゴミ拾い」



「ふくろう通心」第77号でお知らせした、弘前市ボランティア支援センターのホームページのリニューアルを担当し、ボランティア団体さんの活動の情報が閲覧できるようになりました。

さて..先日、近所の公園に子どもたちと出かける機会がありました。私は偶然落ちていたゴミを拾って小さなビニール袋に入れました。「ゴミ拾いの大会があるんだよ。重さや種類の得点で勝負するの。タバコの吸い殻は得点が高いんだよ。」と昨年度の一日体験ボランティアで参加した「スポ GOMI 大会」の話をしたら、子どもたちは遊ぶことよりもゴミ拾いに夢中になって、私も「ここにあるよ。」などと声を掛けながら、その後ゴミを拾いながら家まで帰りました。子どもたちは家で留守番をしていた妻に、ゴミ拾いの話を自慢げにしたのですが「誰が触ったかわからないし、口を付けたものもあるんだから。何があるかわからないのよ。」と素手でゴミを拾ったことを注意されてしまいました。手袋と拾うための tong を用意するべきだったと私も反省しました。コロナ禍の難しさを感じながら複雑な思いになりました。

ボランティア支援センターの勤務から離れることになりましたが、この出来事のように、「ボランティア」を以前よりも身近に感じながら毎日過ごしています。 千葉勝博



<制作>市民ボランティアスタッフ  
<制作協力>弘前市ボランティア支援センター  
〒036-8003 弘前市大字駅前町9番地20 ヒロロ3F  
弘前市民参画センター内  
TEL:38-5595 FAX:36-1822  
HP:www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/  
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。

